

134 コルトーが愛した日本 (2022年10月27日)

日本大使館から近いパリ17区に、エコール・ノルマル音楽院 (Ecole normale de musique de Paris) があります。20世紀前半のフランスを代表するピアニストであるアルフレッド・コルトー (1877-1962) が設立した私立の音楽学校です。この学校は、設立当初から外国人留学生を積極的に受け入れており、現在も多くの日本人学生が学んでいます。今回は、コルトーが愛した日本にまつわるエピソードをご紹介します。



コルトーは、1952年に来日し、全国各地で公演を行いました。山口県でコンサートを行った際に、現在の下関市にある川棚温泉のホテルに宿泊しました。ホテルから眺めた美しい厚島 (男島、女島、竜宮島、石島の四島からなる島々の総称で無人島) とそれを囲む海の美しい風景に魅了されたコルトーは、「私はこれまで世界の美しい海や山を見てきたが、こんなに美しい夢のような島はみたことがない。なぜか外国にいる感じがしない。日本はまるで故郷のようだ。」と同行していた弟子に話したと伝えられています。コルトーは当時の川棚村の村長に「天国のようなあの島でこっそり死にたい。ぜひ買いとりたい。」とも話したと言われています。村長は大変驚いたものの、コルトーの言葉と熱意に心を打たれて、「あの島に永久にお住みになるなら、無償で差し上げましょう」と快諾し、島の名前を「孤留島 (コルトー)」と命名することも提案しました。「私の思いはひとりあの島に残るだろう」との言葉を残して、コルトーは帰国しました。帰国後のコルトーは、自分の名前の島が日本にあることを周囲に嬉しそうに話し、日本への再訪を夢見ていたと伝えられています。しかし、コルトーは病に倒れ、願いを果たせないまま1962年にこの世を去りました。

コルトーの抱いた夢は叶いませんでしたが、コルトーの思いが完全に消えたわけではありませんでした。厚島 (孤留島) が縁となって、2007年に下関市とエコールノルマル音楽院がパートナーシップを締結しました。2010年には、コルトーが滞在したホテルの跡地には、隈研吾設計の「下関市川棚温泉交流センター 川棚の杜」が完成し



© Kawatana no Mori/川棚の杜

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

ました。この施設には、コルトーホールと名付けられた音楽ホールが設けられ、毎年「コルトー音楽祭」が開催されています。

コルトーによって日本とフランスとの間の交流が生まれ、コルトーが残した言葉のとおり、コルトーの思いは今も日本で生き続けています。

